

子どもたちが不法投棄禁止看板を作成しました！

志津学区の小・中学生が中心となって活動する「志津わんぱく協働各校」の皆さんと「ごみ問題を考える草津市民会議」が協力し、ごみの不法投棄を禁止する看板を作成しました。看板のデザインは小・中学生が協力して制作し、地域の環境美化への思いが込められています。作成した看板は、子どもたちでの設置を予定しています。

問 ごみ問題を考える草津市民会議事務局

(馬場町、クリーンセンター1階、資源循環推進課内)

☎562-6361、FAX566-1694



歴史ギャラリー

コマ絵で広がる世界

—歌川国芳画「山海愛度図会 おたのみ申たい」(草津市蔵)

No.207

武者絵や風景画で名を馳せ、近年では「大の猫好き」としても知られる江戸時代後期の浮世絵師・歌川国芳の作品「山海愛度図会」シリーズは、合わせ鏡で鬚を確かめる「くせが直したい」「鉄製の茶釜を運ぶ「おもたい」など「くたい」で終わる女性の台詞と日常のひとコマに全国各地の名産や風景を添えて描いたもので、40作以上が残っています。

今回ご紹介するのは「おたのみ申(し)たい」と題された作品。描かれているシチュエーションは不明ですが、乱れた髪、落ちかかった櫛、少しはだけた着物から、急いで誰かを訪ねてきた様子とも思われます。

髪が生え際やまつ毛の一本一本までが克明に表現され、絵師の描いた下絵を元に版を彫る「彫師」の手腕がうかがえます。白一色に見える衿の部分には「空摺」と呼ばれる手法でエンボス加工のように織模様が表現され、ここには「摺師」の技が光ります。

分業制で作品を生み出す職人技もさることながら、この作品で注目されるのは「コマ絵」と呼ばれる左上の挿画です。「近江石灰」は江戸時代、伊吹山や石部で産出された石灰のことで、全国的にも有名でした。ここでは、山肌から白い石灰を掘り取り、縄やつるで編んだ「もっこ」で運び出す様子を描いています。

石灰は現在でも消毒剤・建材用原料・下水処理などさまざまな用途に使われていますが、江戸時代以降は肥料にも用いられました。「山海愛度図会」の発行から50年ほどさかのぼる寛政11(1799)年に出版された、各地の物産の図鑑『山海名産図会』には「あらゆる舟や垣根、溝などは、石灰なくしては成り立たない」とまで書かれています。

伊吹山では採掘の際にわざと山肌を「磨り落とし」、砕けたものを上質としたこともあり、人物の頭上から石が落ちかかるような描写は、荒っぽい採掘現場をイメージさせるものだったようです。ちなみにコマ絵部分は署名から、国芳ではなく、娘のよしが描いたものであると思われる。



▲歌川国芳「山海愛度図会 おたのみ申たい」(草津市蔵)

問 草津宿街道交流館(草津三) ☎567-0030、FAX567-0031

Kusatsu Information

いつでもどこでも「広報くさつ」



市ホームページ



ラジオえふえむ草津
(FM78.5MHz)
「声の広報」



スマートフォン用アプリ

- マチイロ
- SideBooks(ちいき本棚)

市公式ソーシャルメディア



草津市メール
配信サービス

市の情報をメールで
配信するサービス



くさつチャンネル

さまざまな動画や、
びわ湖放送(BBC)
で放送されている
草津スケッチもこ
ちらから配信！



市の花
アオバナ



市の木
キンモクセイ

12月31日現在
(対前月比)

- 人口
140,515人(+22)
- 世帯数
64,735世帯(-12)
- 男 70,416人(-19)
- 女 70,099人(+41)